

五月五日

庄三郎殿江

宿めし 久右衛門
月行司長 兵衛

遣手

いぬノ年は、天和二戌年也、庄三郎は角町角万字や庄三郎なり、

〔嬉遊笑覽九娼妓〕やり手とは、後の名にて、もとくわしやといへり、人倫訓蒙圖彙に、傾城に付くるをやり手と有、また芝居役者太夫の條に、三十より四十におよびては、くわえやかたといふと有り、火車とは、つかむといふ意、つかむは、昔のはやり詞、女郎を買をつかむといへり、心易く我儘にする意なり、つかめなどいふは、とらへてこよと云が如し、やりても、女郎の掟するものにて、つかむといふ意あれば、名けしなるべし、金銀をつかむにはよらじ、火車は聞苦しきゆゑ、花車として、風流の名としたり、さるを花車とは、花にまはる心なりといふは、かの散茶をふらぬといふ謎とせしと同日の談なり、偶その意に通ひし也、やりては花車の車より出たる名なり、庭訓抄に、鳥羽白川には車の遣手といふ者あり云々、この名をとれり、道恕が香車の説は非なり、

〔嬉遊笑覽附録〕漢土にて妓館のあるじ皆女なり、是を鴛と云ふ、妓女も多くは養はず、あるじこれを假女とす、故に親生は殊に賞せらる、こと、見えたり、笑林に、妓者携客輒言、我乃媽所親生云云など云へり、

〔洞房語園上〕鍵手 古來名を花車といふ、花に廻るといふ意か、然れども、くわしやと呼ては聞へあしきとて、香車と書かへたり、香車は將基の駒の一つなれば、香車と呼ずして、やりてといひふれたり、

〔賤者考〕此遊廓に屬したる工商は、皆他よりいやしめらる、まして中 鎗手もとは、上方にもありにも見ゆるを今はきかず、江戸の吉原にはあり、中年以上の者に女髮結禿など、種々あるべし、て、すべて法をとりて折檻をもする者にて遊女に威をしめす、〔東海道名所記〕いづくぞと人にとへば、三谷戸江といふ所なり、局中の口にたち隔子をのぞ